

都市再生整備計画

ちゅうしんしがいちちく
中心市街地地区

おきなわけん よなばるちょう
沖縄県 与那原町

令和4年9月(第3回変更)

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

都道府県名	沖縄県	市町村名	よなばるちょう 与那原町	地区名	ちゅうしんしがいちちく 中心市街地地区	面積	30.5 ha
計画期間	令和 1 年度 ~ 令和 4 年度	交付期間	令和 1 年度 ~ 令和 4 年度				

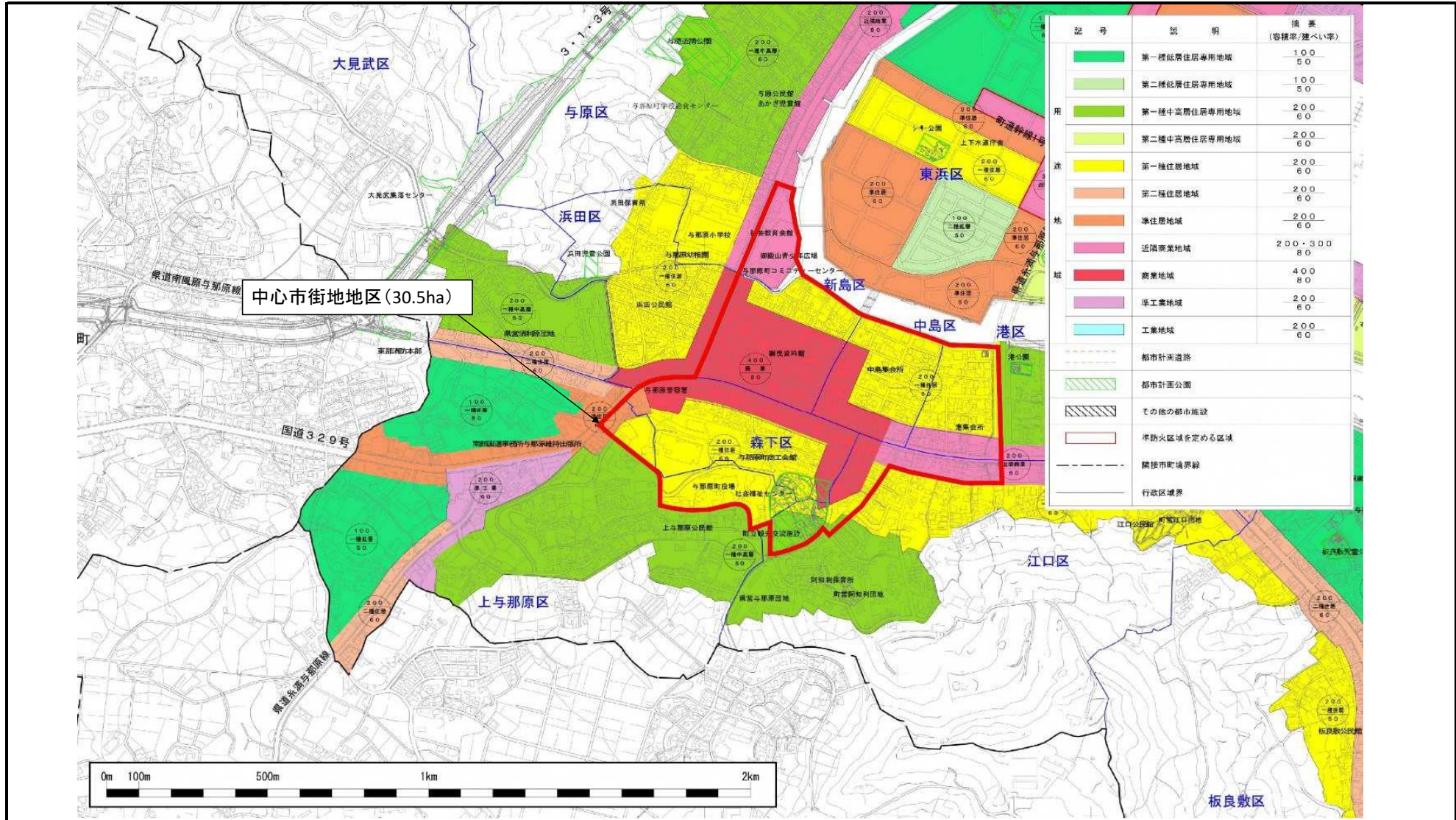
<p>目標</p> <p>大目標：公共施設再編を契機とした賑わい溢れる交流拠点の形成と活力あるまちづくり</p> <p>小目標1：行政機能の充実による住民交流の場の創出 小目標2：歴史と文化を活用したまちづくりの推進</p>
--

<p>目標設定の根拠</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本町は沖縄本島東海岸南部に位置し、本島内で最も面積が小さく(5.18km²)、人口密度(3,554.1人/km²)が高いコンパクトなまちである。 ○ さらに、県都那覇市から9km離れた地点にあり、町中心部では国道329号と国道331号が交差しており、中南部地域への交通利便性が高いまちでもある。 ○ 本町東海岸においては、平成5年～平成23年にかけて埋立事業(中城湾港マリンタウンプロジェクト)が進められ、新たな市街地が形成された。 ○ 新市街地の整備と交通利便性の高さから、H27国勢調査においては人口増加率県内1位となっており(増加率12.8%)、現在も人口は増え続け、令和2年8月末時点では20,059人である。(H22国勢調査人口：16,318人、H27国勢調査人口：18,410人) ○ 本地区は与那原町の中心部に位置し、国道329号、国道331号に囲まれた面積約30.5haの地区である。 ○ かつては町内でもっとも賑わいのある市街地であったが、近年は埋立事業に伴う新市街地の急速な発展により、本地区の活性化とその賑わいの継続性が失われつつある。 ○ 本地区の南側においては本町の中心施設である与那原町庁舎等の公共施設が立地しているが、老朽化が著しいために早急な建替えを計画しており、その周辺道路の整備計画も進めているところである。 ○ 本地区の中心部において、町都市計画マスタープランの基本方針である「既存市街地と新市街地が調和したまちづくり」に基づき、歴史・文化等の資源を活かした旧市街地のまちづくりを進めている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 町庁舎は、町民共有の財産として町民に親しまれ、町の活性化と発展に寄与するため積極的に活用される良質さを備えた施設であるべきだが、築40年以上が経過しているため建物や設備等の老朽化が進み、庁舎本来のすがたを失いつつある。 ○ 本町では、各種町内団体の活動拠点及びイベント等を開催するなどの役割を担った地域交流施設がなく、既存の公共施設の一部を借用し実施している状況であるため、イベント等の開催に制限がある。 ○ また、特定健診や乳幼児健診等の保健事業を実施する際に利用できる施設が不足している状況であり、既存の公共施設利用に制限があることから円滑に事業が行えていない。 ○ 町庁舎を町民ホールや保健センターと一体的に整備し、既存施設である社会福祉センターの全機能を町民ホールへ移行することで、行政機能の充実や地域コミュニティの充実など多様な交流を生み出し、新たな交流拠点として地区内の活性化を図る必要がある。 ○ 町庁舎周辺の道路は道幅幅員が狭いにもかかわらず、交通量の多い国道329号や331号の「抜け道」として利用されていることから、地区内歩行者の安全・安心確保のためにも道路整備が必要である。 ○ 本町の親川(エーガー)広場等の文化財施設においては歴史文化の学習の場とし、施設整備の計画を進めており、施設と一体となった空間形成を図るため、周辺道路の修景整備が必要である。 ○ 軽便駅舎資料館は、歴史と平和のシンボルとして平成27年に復元し、平和記念行事等で活用中であるが、立地状況から施設へのアクセスが悪いため、カラー舗装整備し円滑に来場者を施設へ誘導する必要がある。 <p>将来ビジョン(中長期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第四次与那原町総合計画(平成23年度策定/平成29年9月一部改訂)及び「与那原町都市計画マスタープラン(平成25年9月策定/平成30年6月一部改訂)」では、「太陽とみどり、伝統とやさしさを未来へつなぐ海辺のまち」をまちの将来像とし、「みんなで創るころ豊かなまち」、「ゆとりと潤いのあるまち」をまちの目標としている。 ○ また、「与那原町都市計画マスタープラン(平成25年9月策定/平成30年6月一部改訂)」では、「交通の要衝としての立地を活かしたまちづくり」、「既存市街地と新市街地が調和したまちづくり」、「地域の産業を支え、創出するまちづくり」、「社会情勢に対応したまちづくり」をまちづくりの基本方針としている。 ○ 本町の歴史的資源や行政・文化・商業・観光などの都市機能の集積を活かしながら、中心市街地と一体的に公共公益施設の計画的・重点的に整備を行い、賑わいと活力のある中心市街地地区の実現と豊かなまちの創出を図ることとしている。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
					基準年度	目標年度	
町民ホールイベント参加者数	人	町民ホールで開催されるイベントへの参加者数	町民ホール新規整備による利便性向上や地域活動の活性化を評価	14,850	H29	23,000 R4	
特定健診受診率	%	特定健診を受診する町民の割合	保健センターの新規整備(バリアフリー化、機能充実等)により公共施設の利便性を評価	45.9	H28	56.0 R4	
与那原町軽便駅舎資料館の来場者数	人	与那原町軽便駅舎資料館の年間来場者数	与那原町軽便駅舎資料館の活用実績を評価	7,730	H29	8,000 R4	

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1<行政機能の充実による住民交流の場の創出> 老朽化した庁舎の建て替えに伴い、町民ホール及び保健センターを一体的に整備することで行政機能の充実や住民交流の場の創出を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内各種団体の活動拠点及びイベント開催の場となる町民交流場の整備 ・乳幼児から高齢者まで生涯を通じた健康づくりの拠点となる保健センターの整備 ・公的施設への円滑な誘導を促進するサイン整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・高次都市施設 町民ホール整備(基幹事業) ・地域創造支援事業 保健センター整備(提案事業) ・地域生活基盤施設 誘導サイン整備(基幹事業)
<p>整備方針2<歴史と文化を活用したまちづくりの推進> 文化財や歴史的資源を周辺と一体的に整備することで、歴史と文化を活用したまちづくりを推進し、賑わいが溢れ、活力のある中心市街地の形成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財施設の整備と一体となった空間形成を図る道路修景 ・歴史的施設への円滑な誘導を促す道路カラー舗装整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・高質空間形成施設 石畳舗装整備(基幹事業) ・高質空間形成施設 カラー舗装整備(基幹事業)
<p>その他</p>	

<p>中心市街地地区(沖縄県与那原町)</p>	<p>面積 30.5 ha</p>	<p>区域 新島区、中島区、森下区、 上与那原地区の一部、江口区の一部、港区の一部、与那原区の一部</p>
-------------------------	-------------------	---



ちゅうしんしがいちく おきなわけんよなばるちよう
 中心市街地地区(沖縄県与那原町) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業)

変更後

目標	大目標: 公共施設再編を契機とした賑わい溢れる交流拠点の形成と活力あるまちづくり	代表的な指標	町民ホールイベント参加者数 (人/年)	14,850人 (H29年度)	→	23,000人 (R4年度)
	小目標1: 行政機能の充実による住民交流の場の創出		特定検診受診率 (%/年)	45.90% (H28年度)	→	56.00% (R4年度)
	小目標2: 歴史と文化を活用したまちづくりの推進		軽便鉄道駅舎資料館来場者数 (人/年)	7,730人 (H29年度)	→	8,000人 (R4年度)

